

第2回鳥取県立中央病院機能強化基本構想検討委員会：会議録（概要）

- 1 日 時 平成25年4月18日(木) 午後1時30分～午後2時45分
- 2 場 所 鳥取健康会館（鳥取市戎町317）
及び鳥取県西部医師会館（米子市久米町136）
※TV会議システムを利用
- 3 出席者 出席者名簿のとおり（別紙）
- 4 議 題 県立中央病院機能強化の方向性について
（救急医療の充実及び周産期医療体制の充実について）

【主な意見】

1 救急医療の充実

（1）救命救急センターの充実

特になし

（2）脳卒中センターの整備

- ・脳卒中は神経内科だが実際には脳外科のサポートがいる。脳外科が関与した方が体制は充実できる。
- ・中央病院の場合は神経内科の先生がいて、患者さんが搬入されたとき診察をして出血があれば脳外科の先生が対応するという体制ができています。センターという限りは一緒にやられるのがいい。
- ・東部医療圏のセンターにするのだったら、10人くらいいた方が本当はいいと思う。将来構想ということで、急にはできないと思うが。
- ・今、それぞれの施設に2、3人の脳外科医がおられる。そのことで上手くまわっていることもある
- ・脳卒中の領域で言われているのは疾患を早く見つけて早く治療をし、早くリハビリを開始することが予後に関係するので、知識豊富なスタッフが集中して対応することが重要
- ・一貫して訓練されたスタッフによりリハビリまできちんとできるユニットがセンターだと思う。

（3）心臓センターの整備

- ・いざというときに外科的な治療ができるというのは中央病院しかないわけだから血管の治療については、できれば充実していただいて心配のない体制がとることができればと思う。
- ・いくら集中していても疲弊すると思うのである程度分散した方がいい。各病院でもせめてインターベンションはできる体制は各病院で持って、難しいケースとか外科に転化するかもしれないケースを中央病院でみていただくとありがたい。

2 周産期医療体制の充実

特になし

3 その他

- 地域連携、日赤などの病院の役割分担というところがある程度ビジョンとして明確化した方が分かりやすい。
- 今後に向けての機能強化と整備ということなのでそれは是非進めていただきたい。
ただ、色々なセンターがあるが、これは院内呼称的なセンターなのか、少し分かりづらい。
- 充実していただくことは、これから先の東部の医療圏のことを考えると重要
これを進めるためにはドクターの育成が非常に重要なので大学に育ててもらって帰ってもらうとか、積極的な交流がいる。
- 救急医療を充実するということは、救急の時期を脱したら次にどうするのかということもあわせて考えないといけない。急性期が過ぎた後にみていく病院もさまざまな知識や技量を上げていけるようなシステムを考えておかないと、たちまち行き所が無くなったのでは何もならない。
- 県の東部圏域でそのような体制ができることは当然だと思ひ必要なことだと考えている。
人数を増やすと同時に質的なものが要求される。それをどう担保するか。

鳥取県立中央病院機能強化基本構想検討委員会 委員名簿

委員氏名		職名等	備考
1	岡本公男	鳥取県医師会長	委員長
2	板倉和資	鳥取県東部医師会長	副委員長
3	北野博也	鳥取大学医学部附属病院長	西部医師会館・TV会議システムで参加
4	山下裕	鳥取市立病院長	
5	福島明	鳥取赤十字病院長	
6	齋藤基	鳥取生協病院長	
7	虎井佐恵子	鳥取県看護協会会長	
8	米田由起枝	米田由起枝税理士事務所長	
9	祖父江友孝	大阪大学大学院医学系研究科教授	新・欠席
10	佐々木美幸	中央病院「サロンあおぞら」世話人	新
11	松田佐恵子	鳥取県福祉保健部長	新
12	生田文子	鳥取県教育委員会事務局 教育次長	
13	柴田正顕	鳥取県営病院事業管理者	
14	日野理彦	鳥取県立中央病院長	